

市民科学者とアカデミアの協働体制の構築と博物館が所蔵する学術的レガシーの活用による未記載・未解明大型担子菌類探求の推進

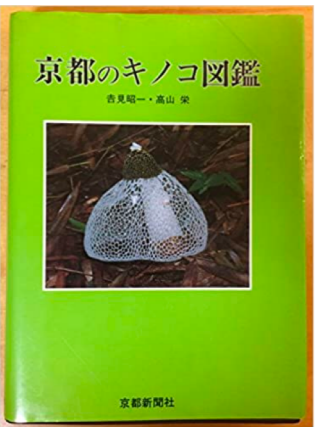
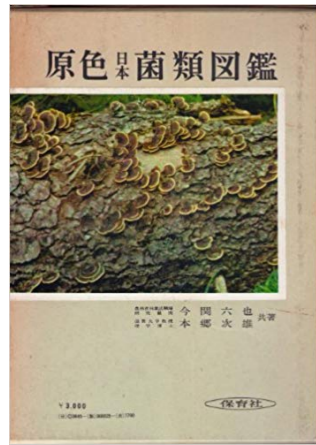
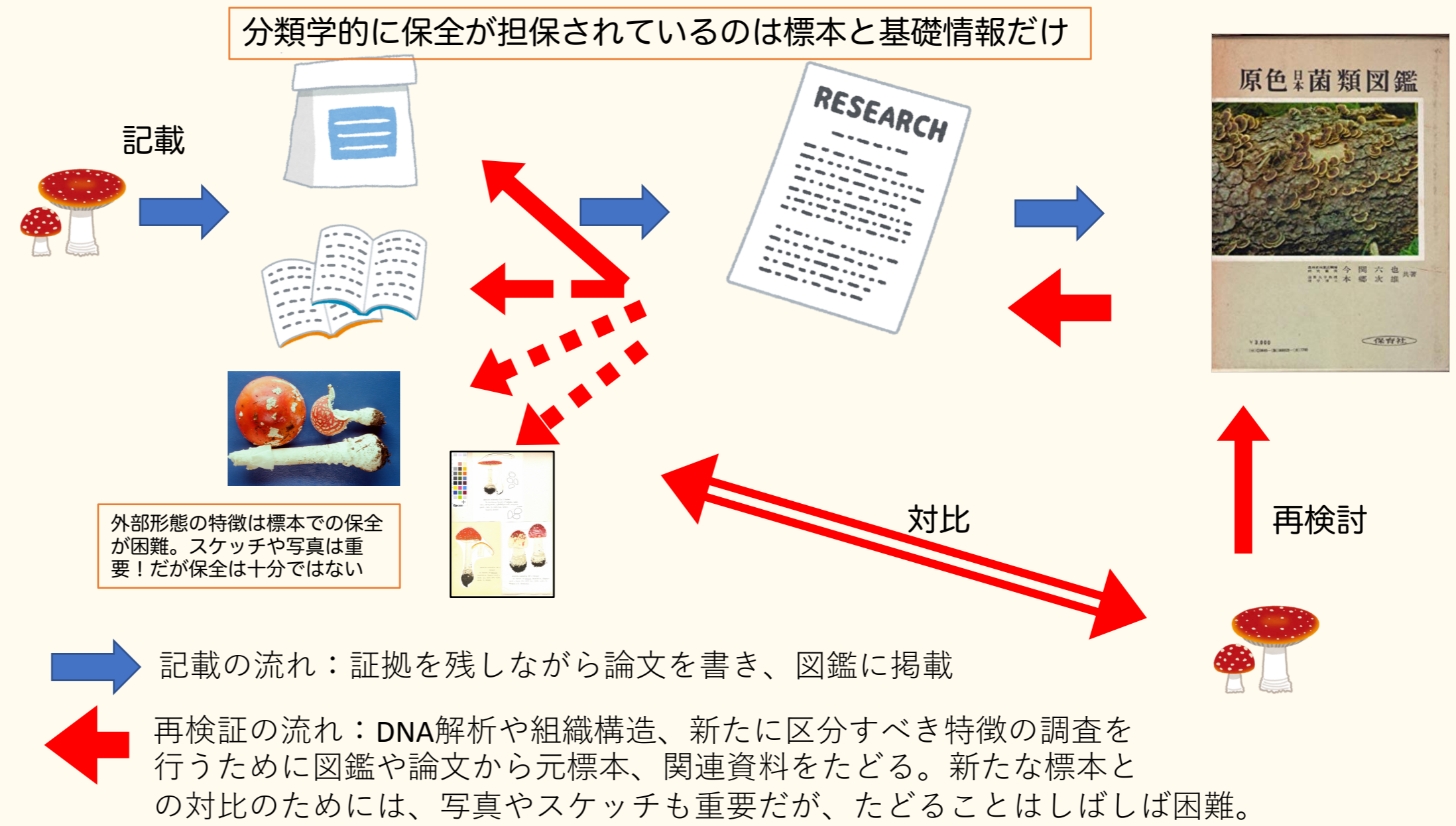
佐久間 大輔（大阪市立自然史博物館学芸課）

本研究の目的：

●標本やラベル情報だけでなくノートなどの原資料、スケッチ、写真などを再検証、記載に活用できるように活用を図りたい。
（その事により現在の観察と対比できる情報は豊かになる）

●過去に記載まで活用されていない資料も活用の可能性を！
（過去の研究者の観察を、現在の技術で活かす）

●過去のアマチュア研究を活かす、今後のアマチュアの活動を支援する



コレクション	特徴	活用可能性	整備状況
本郷次雄初期コレクション	これまで確認されていなかった、1950年代～60年代の観察図譜（標本はすでに確保されている）および生態写真、海外や離島での観察記録	本郷氏が初期や遠征調査で記載・報告した種の検証、種概念の変遷検証 海外のどのような種と対比したのかの検証 描画には描かれない生息地情報解析	初期描画資料800枚のデジタル化を終えた。遺族との著作権処理中。
青木実資料	現存する標本の大半は国立科学博物館に収蔵されている。図版の原図と、関連ネガ及びポジフィルム。図版に写真記録があることは記入されていたが、これまで知られていなかった	青木が仮称をつけた膨大な未記載種の外部形態的な特徴を具体的に示し、現存する不明種との対比可能性をぐっと高めてくれる。もとより青木は組織的な特徴を入念に図示しており、外部形態の特徴が加わることで、野外から採取した標本を対比し、遺伝的情報を含めた検討可能性が高まった。	ポジ写真1900枚およびネガ1100枚あまりをデジタル化完了。一部希望するアマチュア研究者に提供済み。
吉見昭一コレクション	「腹菌類」を中心とした標本・写真・線画	京都府の野生生物目録及びレッドデータブックの根拠標本となっている。腹菌類については、特に遺伝的な情報が加わることで大幅な分類見直しが進行している。こうした新たな視点と、かつて広まった吉見の種概念を対比する必要がある、そのために重要。	標本は大阪市立自然史博物館コレクションに統合済み。写真は未デジタル化だが分類別には探索可能にした。
上田俊穂コレクション	山と溪谷社のフィールド図鑑を始め、本郷氏とともに多くの図鑑を執筆した上田氏の標本、資料、描画など	ベニタケ科を中心に研究した上田氏は、新種記載はあまり行っていないが <i>Lactarius uyedae</i> を始め、多くの新種探索にも貢献し、また多くの検討中の資料を抱えていた。これまで検討を終えた資料は博物館に収められていたが、今回はそれ以外の資料を寄贈いただき資料整理を行った。	コレクションの確認を終了。標本資料750点、描画資料など400点について、今後関西菌類談話会と共同で出版へ。
豊嶋弘資料	香川県内の数少ない網羅的菌類氏資料を執筆している豊嶋氏の遺した描画資料群。対応する標本は現在のところ不明	目録には学名や採集地など最低限の記録しかないため、豊嶋の報告した時代（1950年代～90年代）には区分されていなかった種など（例えばイボテングタケなど）を検証することができなかったが、描画資料によって可能となった。	未公表描画資料1200枚のデジタル化を終了。目録化準備中

本郷コレクション
初期の図鑑製作期の図版や遠征調査（下段は小笠原調査）の資料。種認識の変遷や今後の再検討の資料になる。

青木資料から 多数の未記載種が含まれている」
ユキシロキツネガサ(青木仮称) *Leucoagaricus* sp.
(日本きのこ図版 第2巻 541-544頁、図版№1331、№1739)

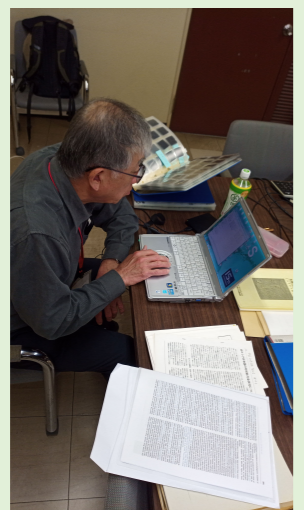
標本番号79-2(ネガ) 標本番号87-40(ポジ) 標本番号2195(ポジ) 標本番号72-3(ポジ)

豊嶋弘資料
当時の未記載種まで含めて同定を試みることができる充実した資料。しばしば検鏡図も伴っている。

上田俊穂コレクション
標本資料はこれまでも自然史博物館に寄贈されていたが、関連資料は今回初めて収蔵。ポジフィルムも多い。Sensu Hongo & Uyedaを理解するための重要資料

標本の理解をひろげ、研究の裾野を広げるために

本研究では、青木資料などの整理のために関西菌類談話会の有志の協力を頂いた。標本や資料の活用についての認識を共有していただくこと、きのこ図版など、仮の和名は知られていても実態がよくわからない種群について情報を得るためには効果的な協働であった。



多くのアマチュア研究者にとって、課題となっていたのは（自ら実践するだけでなく）DNAを用いた分類研究への理解と、切片を作成しての顕微鏡観察の技術であった。こうした課題に関して、取組の一環として積極的な講習の場などを設け、また関連してアマチュア研究の手引書・解説書として「きのこの教科書」を出版することができた。本書には上記の学術レガシーについても紙面を多く割いている。

